

# 平成29年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-7号)

農林総合研究センター  
平成29年7月 7日調査

## 気象経過

<平年対比>

### 【平均気温】

- ・6月第6半旬は、金沢は高く、輪島は並（平年差：金沢+0.8℃、輪島-0.3℃）
- ・7月第1半旬は、金沢、輪島ともにかかなり高い（平年差：金沢+2.1℃、輪島+2.2℃）

### 【日照時間】

- ・6月第6半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い（平年比：金沢176%、輪島175%）
- ・7月第1半旬は、金沢は少なく、輪島はかかなり少ない（平年比：金沢72%、輪島42%）

### 【降水量】

- ・6月第6半旬は、金沢、輪島ともにかかなり少ない（平年比：金沢47%、輪島46%）
- ・7月第1半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い（平年比：金沢494%、輪島336%）

### 【1ヶ月予報】

7月6日発表の1ヶ月予報（7月8日～8月7日）では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は高い確率60%です。週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率50%です。

## 生育概況等

### 【本田の生育】

#### 1. 出穂期予想

ゆめみづほは、近年に比べ加賀地域で並～3日程度遅く、能登地域で1日程度遅い。コシヒカリは、平年に比べ加賀地域は並～2日程度遅く、能登地域は1～2日程度遅い。

ひやくまん穀は、コシヒカリに比べ10日程度遅くなると予想される。

#### 【予想出穂期】

ゆめみづほ	加賀：7月18日～22日	（近年並～3日程度遅い）
	能登：7月24日頃	（近年より1日程度遅い）
能登ひかり	能登：7月27日頃	（近年より1～2日程度遅い）
	コシヒカリ	加賀：7月29日～8月1日
ひやくまん穀	能登：8月4日～5日	（平年より1～2日程度遅い）
	加賀：8月8日～8月11日	
	能登：8月14日～8月15日	

#### 2. 草丈

コシヒカリは平年比92%とやや短く、ゆめみづほは近年並の96%である。

#### 3. m<sup>2</sup>あたり茎数

コシヒカリは、平年比113%（加賀地域113%、能登地域115%）とやや多くゆめみづほは、近年比113%（加賀地域114%、能登地域111%）とやや多い。最高分げつ期はいずれの品種も6月末となった。

ひやくまん穀は加賀地域が533本、能登地域は471本となっており、加賀地域の最高分げつ期は7月第1半旬となった。

#### m<sup>2</sup>あたり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	540本	（平年比 113% 前年比 117%）	29.8本/株
	加賀	526本	（平年比 113% 前年比 118%）	28.6本/株
	能登	561本	（平年比 115% 前年比 121%）	30.5本/株
ゆめみづほ	県平均	586本	（近年比 113% 前年比 116%）	29.3本/株
	加賀	591本	（近年比 114% 前年比 117%）	33.5本/株
	能登	578本	（近年比 111% 前年比 115%）	31.1本/株
能登ひかり	奥能登	577本	（近年比 121% 前年比 108%）	29.3本/株
ひやくまん穀	加賀	533本	（移植 5月6日）	29.7本/株
	能登	471本	（移植 5月21日）	24.9本/株

#### 4. 葉色

コシヒカリの葉色は4. 4（葉色板値）で前回調査時に比べやや濃くなっており、平年及び前年に比べてもやや濃い。

ひやくまん穀は、コシヒカリよりもやや濃く、ゆめみづほ並の4. 7（葉色板値）となっている。

#### 【病害虫の発生状況】

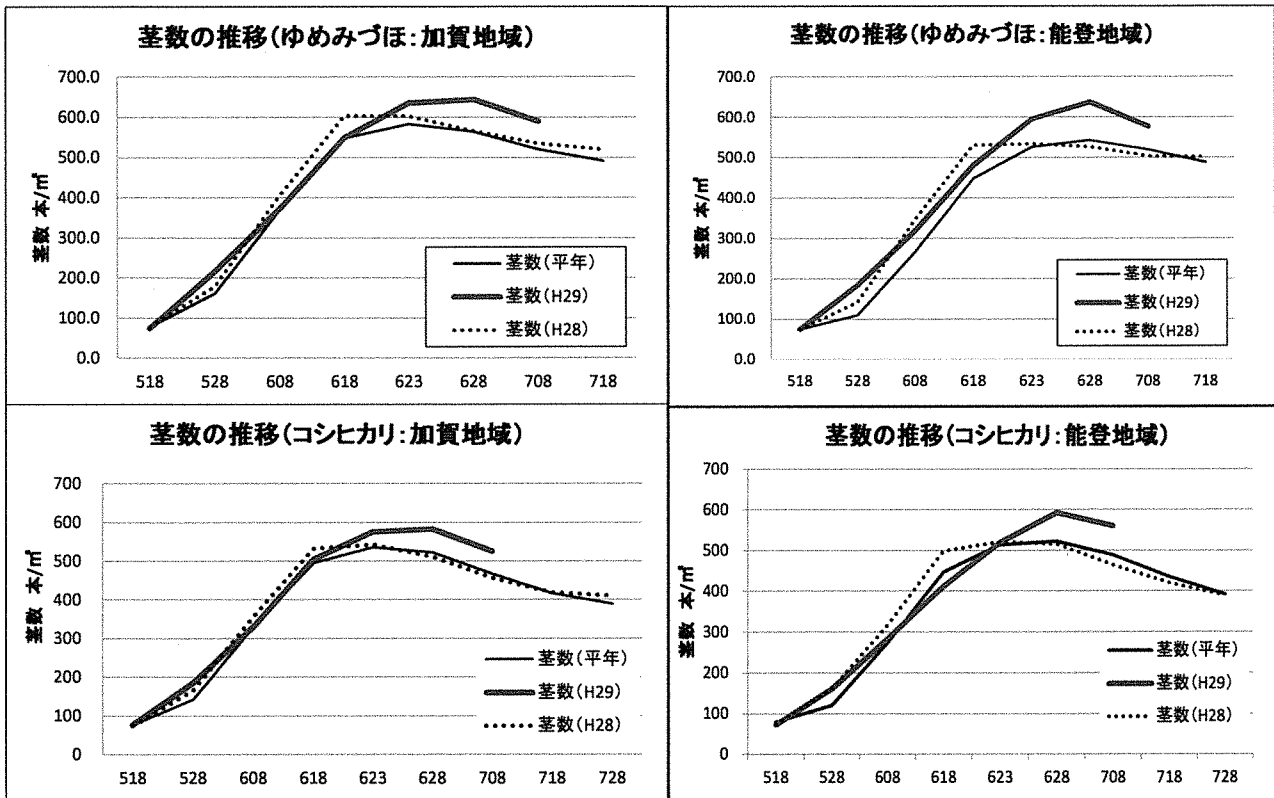
1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。
2. 本田におけるいもち病の初発生が6月30日に確認（平年値7月1日）されており、6月第5半旬以降、感染好適日の出現が多くなっている。
3. 紋枯病の初発生が、7月5日に確認された。（平年値6月27日）
4. セジロウンカが6月23日に県内3カ所で初確認されている。（平年6月27日）

#### 当面の対策

1. ゆめみづほの2回目の穂肥施用は葉耳間長±0 cm（出穂10日前）とし、施肥基準量を守り、遅くとも葉耳間長+2～3 cm（出穂7日前）までに終える。
2. 早生品種は7月18日以降から順次出穂期となるので、出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。  
なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
3. コシヒカ리는幼穂形成期に入っていることから中干しを終了し、早生品種同様、間断通水による飽水管理とする。なお、5月20日以降に田植えが行われた圃場については7月15日頃を目安に中干しを終了し、その後は間断通水による飽水管理を行う。
4. コシヒカリの1回目の穂肥施用は、幼穂長15 mm（出穂15～16日前）、葉色板値3.5を確認して、遅れずに施用する。但し、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより倒伏を防止する。2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。
5. いもち病の感染好適日が多数確認されており、いもち病の常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの発生を認めたら周辺ほ場を含めて直ちに防除を実施する。また、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。
6. 紋枯病の常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では発生に注意し、防除を徹底する。粉剤での防除適期は、出穂前10～14日である。
7. 稲こうじ病の防除については、出穂15～10日前に行うこと。
8. 今後の畦畔や農道の除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は、本田防除の直前に行う。  
※本田カメムシ防除の留意点  
7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。  
8月以降に出穂する稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。

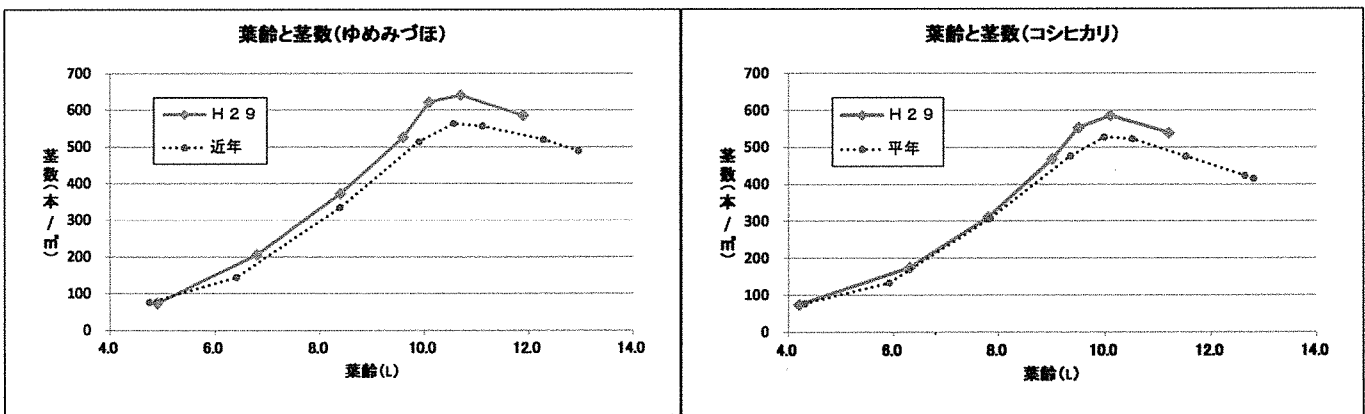
<参考：地域別茎数の推移>

- ・ゆめみづほの最高分けつ期は、加賀地域、能登地域ともに6月28日頃となり、近年並～3日程度遅くなった。現在の茎数は近年及び前年並に比べやや多い。
- ・コシヒカリの最高分けつ期は、加賀地域、能登地域ともに6月28日頃となり、平年並～2日程度遅くなった。現在の茎数は平年及び前年並に比べやや多い。

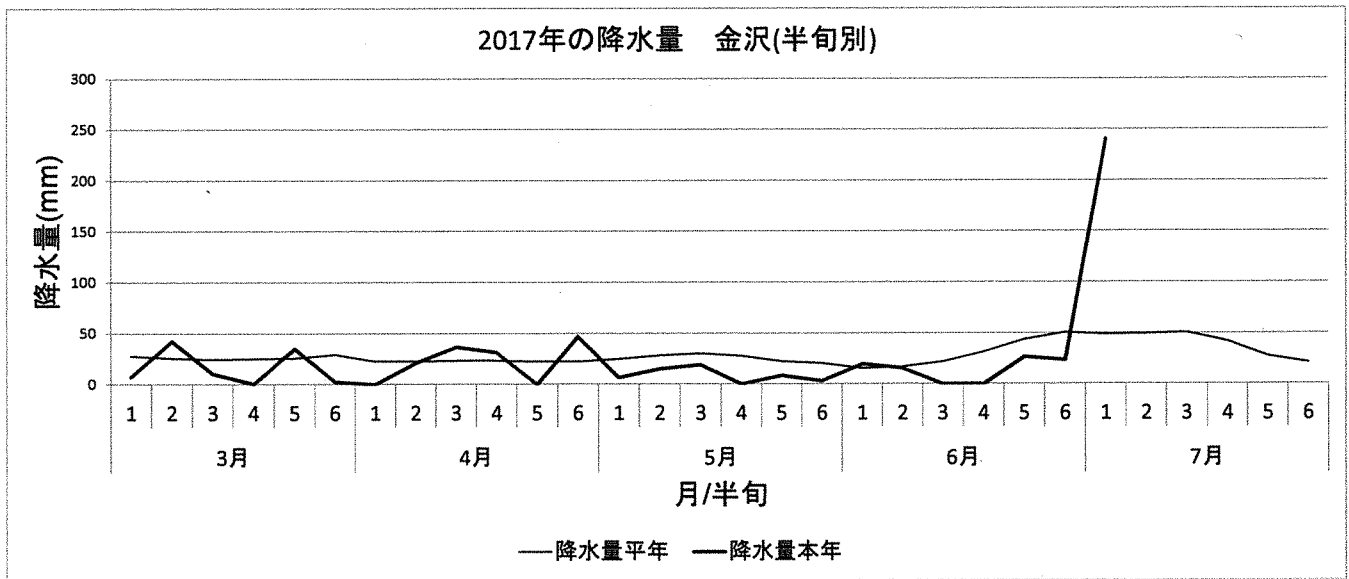
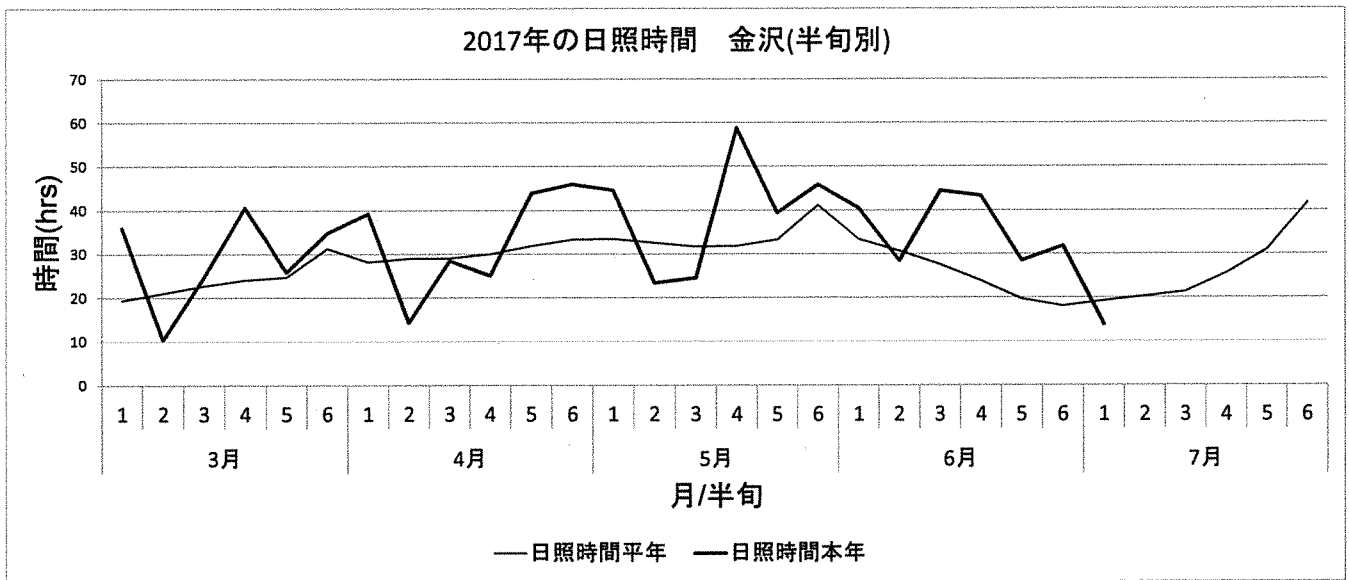
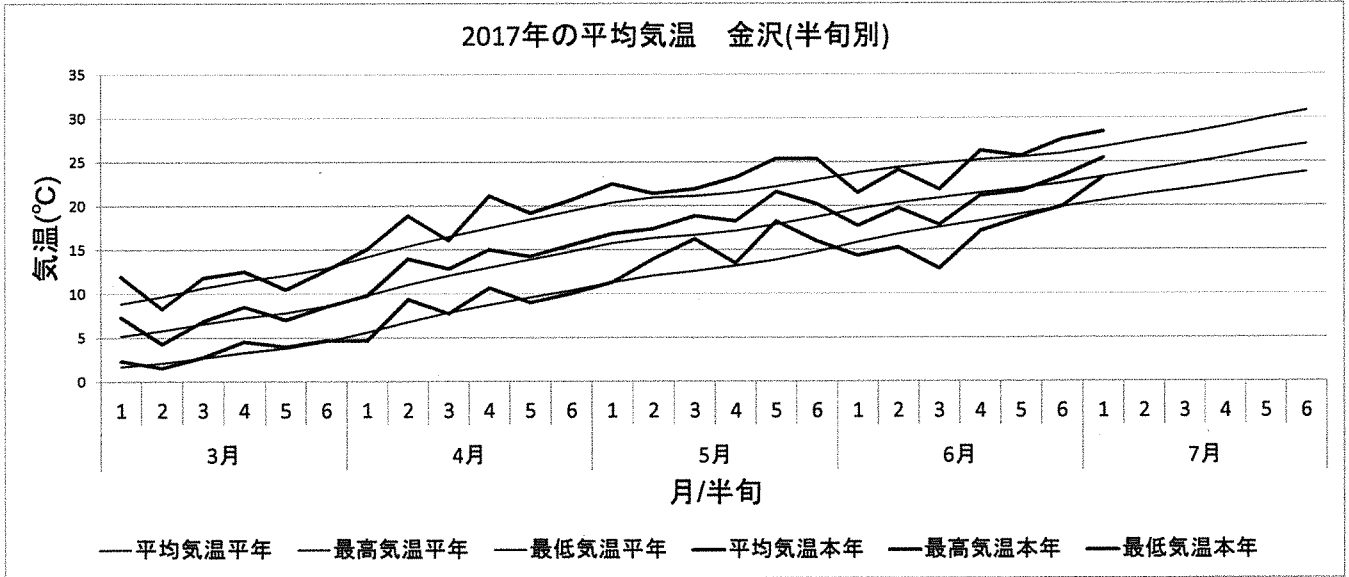


<参考：茎数の増加傾向>

- ・葉齢を基に茎数の増加を平年と比較すると、コシヒカリ、ゆめみづほともに最高分けつ期の遅れからやや多くなっている。



# 気象経過イメージ (金沢气象台)

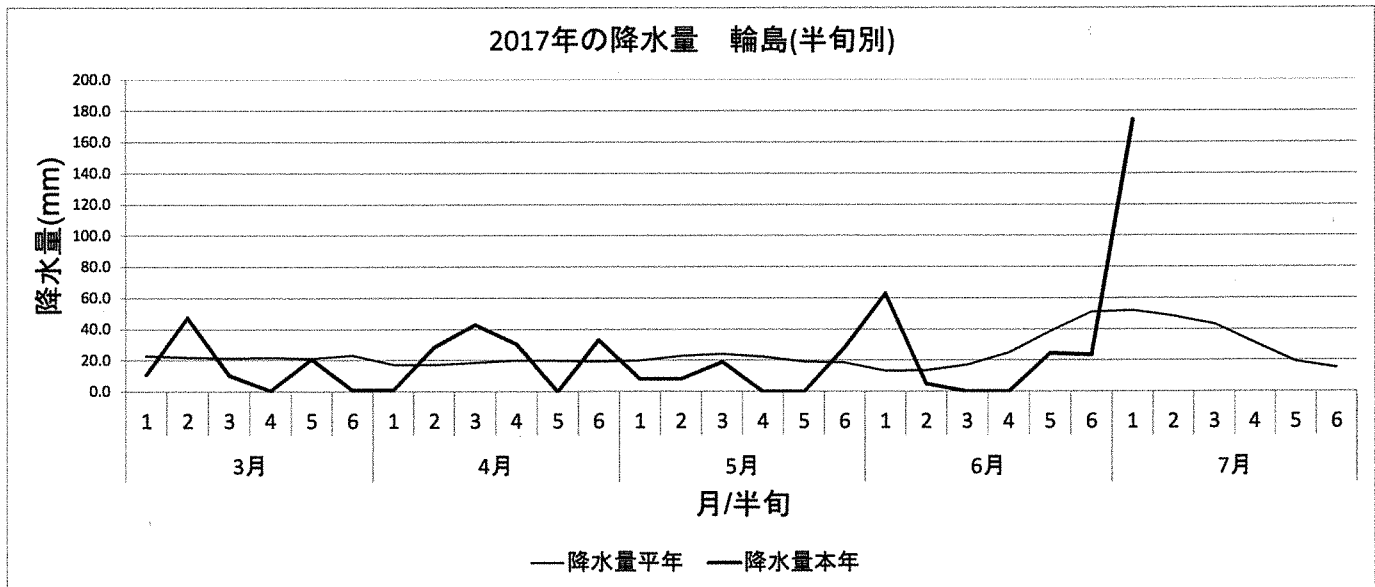
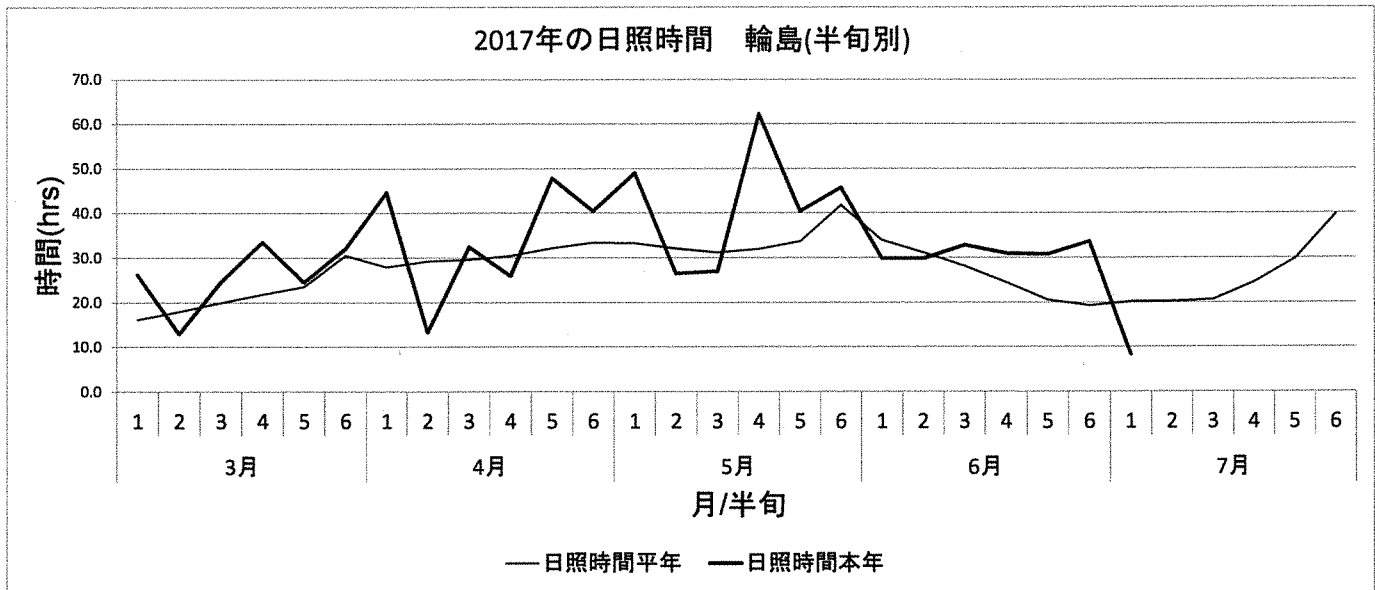
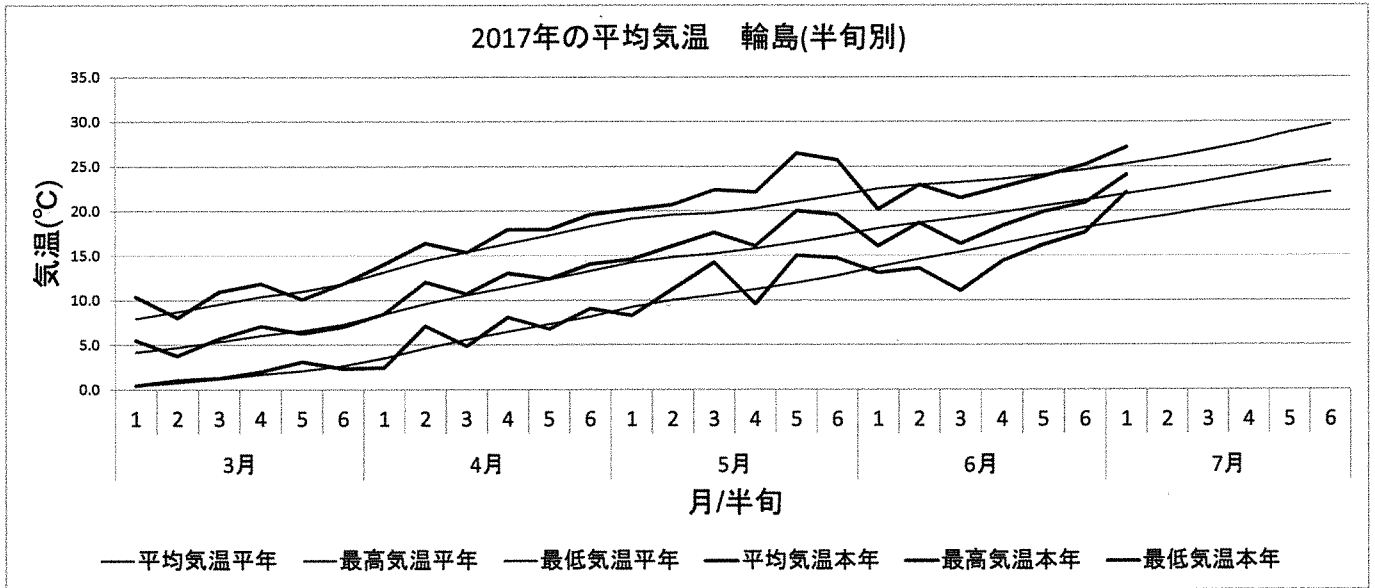


※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い